

## 7月月例労働経済報告のポイント

### 一般経済

- 景気回復は足踏み状態にあるが、このところ一部に弱い動きがある。
  - ・ 輸出、生産は、このところ弱含んでいる。
  - ・ 企業収益は、減少している。設備投資は、おおむね横ばいとなっている。
  - ・ 雇用情勢は、厳しさが残るなかで、改善に足踏みがみられる。
  - ・ 個人消費は、おおむね横ばいとなっている。
  
- 先行きについては、アメリカ経済が持ち直すにつれ、輸出が増加基調となり、景気は緩やかに回復していくと期待される。ただし、サブプライム住宅ローン問題を背景とするアメリカの景気後退懸念や株式・為替市場の変動、原油価格の動向等から、景気の下振れリスクが高まっていることに留意する必要がある。

### 労働経済

- 労働経済面をみると、雇用情勢は、厳しさが残るなかで、改善に足踏みがみられる。
  - ・ 5月の完全失業率（季節調整値）は4.0%と前月と同水準。
  - ・ 労働力人口（原数値）は6,748万人で、4ヶ月連続で前年同月差で減少（9万人減）。
  - ・ 就業者数（原数値）は6,478万人で、4ヶ月連続で前年同月差で減少（21万人減）。
  - ・ 雇用者数（原数値）は5,576万人で、4ヶ月ぶりに前年同月差で増加（4万人増）。
  - ・ 有効求人倍率（季節調整値）は、0.92倍（前月差0.01ポイント低下）。
  - ・ 新規求人倍率（季節調整値）は、1.35倍（前月差0.03ポイント低下）。
  - ・ 現金給与総額（原数値・速報）は275,815円で、前年同月比0.2%増加。